

# 第35回十勝地区国際理解教育研究大会 研究の概要

十勝地区国際理解教育研究会 研究部

## 1 研究主題

### グローバル社会を生き抜く行動力を身に付けた児童生徒の育成

## 2 サブテーマ

### ～発信・表現・行動できる子どもの育成を目指す学びの創造～

#### 北海道国際理解研究協議会研究部 第11次研究主題より(抜粋)

社会は、国際社会からグローバル社会へとその形態を変化させている。地球規模での環境問題や貧困問題など、人類の未来にかかわる問題が山積している。その解決に向けて国境を越えて様々な人とつながりながら共にこれからの時代を生き抜く力をもった人材の育成が期待されている。そのためには、自分もグローバル社会の一員として、共によりよく生きるために協力し合うことを学び、自分がどう『行動』していかなければならないかを意識する必要がある。

第10次の研究は、『自分と地球をつなぎ、未来を切り拓く児童生徒の育成』を第9次研究に引き続き主題として設定し、『行動力』を支える豊かな心をはぐくむことを大切にしてきた。とくに、『つながり』や『関係性』をキーワードに、他者に関心をもち、他者との違いを認め、他者のよさを感じ、自分の中に取り入れることができるような共によりよく生きていこうとする姿勢をもつ子どもたちの育成をめざしたいと考えた。

これまでの実践から、身近な地域から地球とのかかわりが実感できる教材を使用することで、地球的な視点で物事を考えていこうとする子どもたちの姿が見られた。自国と他国や他国同士をつながりについて理解できたと考える。話し合いの場面では、自分の意見をしっかり述べるとともに、相手の意見にも耳を傾け、よりよいものを創り出していこうとする子どもたちの姿が見られた。

しかし、共通の目的は何なのか、また、行動するために必要な意識・認識や意欲は十分に高まっていたのかなど課題は残った。

そこで、第11次研究では、第10次研究の成果と課題を踏まえ、『高まった子どもたちの意識・認識や意欲をどのように行動として出力させるか』に焦点を当てて研究を進めていきたいと考える。意識・認識や意欲に支えられ、目的(持続可能な平和な社会の創造)を共有して行動にあらわしていく「行動力」をいかにはぐくみ、評価・検証していくかを重視し第11次の研究主題を設定した。

**十勝地区国際理解教育研究会**では、一昨年度、北海道国際理解研究会の全道大会を経て、熟成期を迎え、新たな研究テーマにむけて、活動することが求められてきた。

これまで本研究会では、世界との関連性(教室と世界をつなげる)を重視し、未来を切り拓く児童生徒の育成を目標に活動してきた。多くの実践や研究成果は、わたしたちや北海道の宝となっている。そのような成果を踏まえ、さらなる高みをめざして、十勝らしい